

【様式2】B案

学士教育プログラム学習教育目標とURGCC学習教育目標との対応関係表

学士教育プログラム名称

__経済学__ 学士教育プログラム

	URGCC学習教育目標	自律性	社会性	地域・国際性	コミュニケーション・スキル	情報リテラシー	問題解決力	専門性	
	URGCC学習教育目標	自分自身が掲げる目標の達成に向けて、自律的に学習し行動することができる。	市民として社会の規範やルールを理解し、倫理性を身につけ、多様な人々と協調・協働して行動できる。	地域の歴史と自然に学び、世界の平和及び人類と自然の共生に貢献することができる。	言語(日本語と外国語)とシンボルを用いてコミュニケーションを行い、自分の考えや意思を明確に表現することができる。	幅広い分野の情報や知識を多様なチャネルから収集し、適切に理解した上で取捨選択し、活用することができる。	批判的・論理的に思考するとともに、これまでに獲得した知識や経験等を総合して問題を解決することができる。	専攻する学問分野における思考法、スキル、知識等を体系的に身につけ、活用することができる。	
学士教育プログラム学習教育目標	経済学を中心に社会科学についての幅広い知識を持ち、現代社会の諸問題を総合的・多角的に捉える能力	○						○	
	(URGCC学習教育目標と関連があるとして、○印を付けた理由) 経済学の基礎的な知識や分析手法を体系的に学習することが専門性の習得につながり、それによって自律的に問題点の本質を見抜き、適切な対応をすることができるため。								
	社会科学の基礎力を応用して地域社会が抱える問題を見出し、その解決策を提案できる能力			○				○	
	ミクロ経済学、マクロ経済学の思考方法を学ぶことを通じて、物事を批判的・論理的に考えることが可能となり、問題解決の助けとなる一方、経済史、金融論、公共経済学、国際経済学、環境経済学等の応用分野を通じて、地域や社会の抱える問題点の本質を見抜き、適切な解決策の提案ができるため。								
	情報化社会におけるツールとして情報を自在に駆使できる能力や、社会の様々な場面に対応できるコミュニケーション能力		○			○	○		
	情報処理演習科目を通じて情報やデータを自在に駆使することが可能になり、必要な情報を取捨選択したうえで有効に活用できる一方、演習科目を通じてプレゼンテーションの方法を学ぶことで、自分の考えや意思を明確に表現できるコミュニケーション能力が習得できると考えるため。								
(URGCC学習教育目標と関連があるとして、○印を付けた理由)									
(URGCC学習教育目標と関連があるとして、○印を付けた理由)									
(URGCC学習教育目標と関連があるとして、○印を付けた理由)									